

7 時空間を超越した絵画を描いた2人の天才画家

2019
真鍋友範

同時に人物がいるように描いていても、実際そこには存在しない人物として描く技法を駆使したルネサンス・バロック期の2人の天才画家について考察する。

取り上げるのはジョルジョーネの謎の絵画《嵐》とカラヴァッジョの《せいマタイの召命》だ。

謎の部分は一旦横において、両者の構図を確認しよう。

これらの絵画を見ていたら、奇妙な共通点に行き着く。お気づきだろうか。



図版 1

《嵐》ジョルジョーネ



図版 2

《聖マタイの召命》カラヴァッジョ

まず《嵐》では、この画面を描いている画家ジョルジョーネは、実際にこの画中の2人の人物を【遠近法】で描いていない事実気付くのだ。

何故なら、【男】はより近くに居るのに、遠い位置の【母子】よりもかなり小さく描かれている。女は男の約1、2倍の大きさだ。

つまり、ジョルジョーネは、この画面の男と女は実際に見えている情景ではないことを観衆に訴えている。これは【2場面から構成された合成画】なのだ。

その2場面の一つは、【男と嵐の空】が一体化された場面、そしてもう一つは、【母子と嵐の空】が一体化された場面だ。

【男と嵐の空】が一体化された場面とは、叙情詩的な男の心情の反映だ。男は嵐の迫る空を見上げながら、戦乱せまる故郷の街に住む母子を心配している情景だ。

【母子と嵐の空】が一体化した場面とは、叙情詩的な女の心情の反映だ。女は嵐の迫る稲妻の音を聞きながら、戦地の夫の無事を祈っている。

この二つの場面を合成するとジョルジョーネの描いた統一場面となる。

さて、2人は生きた現実の人なのだろうか。結論から先に述べるなら、2人も地上の生きている人物ではないのだ。何故なのか、その理由を明かそう。

男の顔が黒っぽく明確ではないのに、女の顔は遥かに明確だ。これも遠近法出描いた絵画として眺めていたら不自然な描写なのだ。

【男の顔が黒っぽく不明確】である理由は、死ぬ運命にある人物であり、もう既に亡くなっているからだ。】画面に描かれている【折れた二本の石柱】は、破壊つまり男の死を暗示している。そして【顔を黒っぽく不明瞭に描かれた男】は、画面を観衆が見ている段階に於いて、既にこの世には居ない人物なのだ。



図版3

《四人の哲学者》ルーベンス

右から番目の人物が、哲学者の故リプシウス

何故ならば、ルーベンスの描いた作品にその答えが見いだせる。《四人の哲学者》（図版3）の中の中央にいる哲学者リプシウスは、この絵画が描かれる数年前に亡くなった人物であり、ルーベンスは他の2人と区別したのだ。

では、《嵐》の女は明確に裸婦姿で描かれているから、生きている人物と考え

てしまうが、それは違う。この女（母子）もまたこの世の人物ではない。天上の人＝ヴィーナスなのだ。天上の人＝ヴィーナスを裸婦として描くのは、新プラトン主義の影響を受けたボッティチェリの《春》（図版4）やジョルジョーネの弟子であるティントレットの《聖愛と俗愛》（図版5）にその例を見いだすことができる。



図版 4



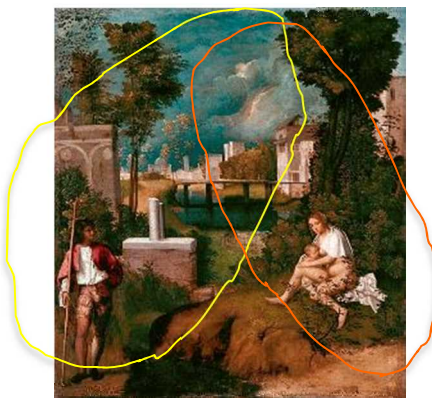
図版 5

《春》 ボッティチェリ

《聖愛と俗愛》 ティチアーノ

繰り返すが、《嵐》の人物たちは、地上の（生きている）人物ではないのだ。

【遠く離れた地点にいる人物】が、その叙情的心理の描写場面として、嵐の空を結末点として一つに合成されているのが、《嵐》なのだ。



《嵐》 ジョルジョーネ

イエローとオレンジの囲み線の内容が同じ場所であるかのように合成されている。

では、カラヴァッジョの描いた《聖マタイの召命》でも同じく画面合成が行われているが、お気づきだろうか。



図版 6

《聖マタイの召命》カラヴァッジョ

ブルーの二本の分割ラインで分けられる二つのグループは、実際には左右にずっと離れているのだ。

《聖マタイの召命》の中の、向かって左のテーブルに座っている収税所にやって来た【納税者のグループの人物達の視線の方向】を凝視していただきたい。いったい何処に視線の焦点があるのだろうか。【右側のイエスではない。】【イエスよりも更に右側なのだ。】

カラヴァッジョには、この制約ある聖堂の四角い画面の中よりも、横に広がりのある長方形の画面の方が、このテーマに適した画面であることは認識できていたと思われる。そこでカラヴァッジョが選択した描画方法は、【画面の左右の幅を圧縮する】という大胆な手法であったのだ。

つまり、2人の描写スタイルには決定的な違いがあるのだ。

* ジョルジョーネ＝虚構時空間短縮型叙情詩的物語表現

* カラヴァッジョ＝実空間短縮型写実主義的物語表現

ジョルジョーネの空間は遠く離れた地点どうしの虚構としての合成空間であり、カラヴァッジョの空間は、より写実的な近接空間の圧縮された空間なのだ。

これら、イタリアルネサン期からバロック期にかけての西欧絵画の秀作に現れた2人の天才画家の表現した、二つの典型的な【時空間圧縮表現】を理解できれば、これらの表現が当時として最先端表現であったのかという事実と、その後の西欧絵画への圧倒的影響力に気付かされることになるだろう。